

大川栄策カラオケ教室



「再会」編

前作の“駅”に続きこの歌も男歌の立場で作られています。究極の別れの状況を情熱的に歌い上げた“駅”の続編と捉えて頂いて歌って貰ってもいいですし、全くの新しいお話として自分の中でイメージを膨らませて歌い出しても結構です。

“駅”のスピード感に比べぐっと落ち着いたテンポなのでこの歌の持つ雰囲気やペースとでも言いますかその辺をたっぴりと意識してじっくりと歌い上げられると思います。便宜上“駅”と対比してお話を進めますが歌い出しは自分が夜の路地裏を一人で歩いているイメージを想像して下さい。その歩くテンポはイントロ（前奏）のスピードと同じテンポで歩き始めます。まず風に震える～は木枯らしの吹く頃、目の前に人恋しげに赤ちょうちんが風に震えています。本当に声が震える感じで震える～のフレーズをカバーして下さい。

二行目の入り方は思いがけず～は感情を入れないで無機的に突き放す様な感じで歌えば次の出会ったお前～が活きます。再会の喜びと、別れてからの男の苦悩と寂しさの時間の経過に思いを巡らせて下さい。又、出会ったお前～は一行目の赤提灯に呼応するように気持ちが震える様を重ね合わせれば最高の表現です。

又この二行目は次の三行目の中サビの導入部とも言えますが基本的に一、二行目は語りのフレーズです。“駅”とは真逆の形式になっています。

まあ普通“再会”の進行形式が一般的だと思いますが、三行目の夢と言う名の男の身勝手～ここから久しぶりに出会った男と女の今までのいきさつを歌い上げます。

従って時間軸は過去に戻ります。男の若い時代の冒険心と野心に満ちた夢を荒々しく歌い放つ感じで・・・四行目は泣かせた昔のああ女～・・・ここからはスポットライトが女性に当たります。そんな我侘な男を優しく包んで呉れた女の心根に男の悔恨の情を滲ませます。従って三行目と四行目は対照的な表現方法になります。

“駅”で言えば赤いコートに～の三、四行目は語りのフレーズであり情景描写ですが“再会”は時間の経過と共に変化する男の心の動きを吐露する内面の表現と言えます。

そして最終章の場面は時間軸がリアルタイムに戻ります。別れ傷跡～

この五行目の入り方は三、四行目で激しく動いたメロディと感情を一旦反故にして、今酒場に肩を並べて二人で座り、男は女の心の傷を労わりつつも照れがあり、女は恨みつらみも有りながら自分を思いやれる成長した男を憎からず思う気持ち・・・その辺の少し屈折した感情を抑え気味に声はたっぴりと、“駅”の同じ所では汽車が来る汽車が来る～とラストのフレーズに向けダイナミック且つリズムに動きますが、ここは時間が止まる感じですよ。

むしろ時間を止めて欲しいという願いを込めて冬酒場へ～ここで大きなメロディを大きく歌い上げる感じで歌い納めて下さい。

今回は発想法や情景描写を主にお話しましたが、歌いながらそのドラマの映像をイメージして歌う事もとても大事です。参考にして見て下さい。